

日本共産党

町政をチェックし、町民の声を議会に届けます

今度は久保田かずえさんを町議会へ

来年4月の町議選挙に久保田かずえさんを発表

日本共産党長崎県北部地区委員会（石川悟委員長）は、来年4月に行われる川棚町会議員選挙に、新人の久保田かずえさんをたててたかうことを発表しました。

日本共産党は、三根文二町議の後継者として、久保田かずえさんを必ず議会へ送るために、全力をつくす決意です。

日本共産党川棚支部の見解を紹介します。

長い間、本当にお世話になりました

町会議員 三根文二

来春は統一地方選挙が行われますが、私は今限りで、引退することになりました。間もなく7期28年の任期を迎えますが、みなさんには、長い間、本当にお世話になりました。心から感謝申し上げます。

これからは、川棚町議会の日本共産党の議席を、私の後継者の久保田かずえさんに、しっかりと引き継げるように、全力を尽くします。

定率減税の半減などで、町民に年間4500万円の増税が押し付けられ、国民健康保険税、介護保険料も引き上げられました。この条例に反対したのは、日本共産党だけでした。増税と税金のムダ使いに「待った」をかける議員がいないと、暮らしを守れません。

久保田かずえさんは、長い間国立病院の労働組合の書記として活動してきて、働く人の苦しみも喜びもわかる人です。また、医療や福祉の充実をいちばん願って頑張ってきた人で、みなさんに自信をもっておすすめできる人です。

久保田かずえさんに、みなさんのあたたいご支援を、心からお願いします。



三根文二議員の議席を受けつぐために、力いっぱい頑張ります。みなさんのあたたいご支援を、よろしくお願いします。

日本共産党川棚支部女性部長

久保田 かずえ

略 歴

1945年（昭和20年）川棚町数石生まれ。61歳

1964年（昭和39年）川棚高校卒。

2006年3月まで、全医労（国立病院の労働組合）の専従書記を30年間務める

家族は夫、子ども2人。

久保田かずえさんの 歩んだ道

父の結納はにわとり一羽

久保田（旧姓田道）和恵さんの父は軍人でしたが、終戦前に南方から帰ってきて、波佐見町に住む母と結婚しました。

その時の父の結納は、にわとり一羽だったそうです。久保田さんが生まれる前は戦争中だったので、裏山の防空壕にいつ生まれてもいように準備していましたが、前列右がかずえさん



た。しかし、久保田さんが生まれたのは、第二次世界大戦が終わってから五日後、一九四五年八月二〇日だったので、家で安心して出産することができました。

高校卒業までに4回の転校

父の転勤の関係で、転校が続きました。川棚小学校に入学後、大村市の三城小学校に転校して、また川棚小学校に戻って川棚中学校に入学。そして島原第一中学校に転校して、島原高校に進学直後、川棚高校に転校になりました。

転校がきつかったので、反抗期には父に反発するようになりました。

どこに行ってもすぐ友達をつくり 思ったことはすぐ実行

子どもの頃は本が大好きで、夜遅くまで読書ばかりして目が悪くしました。

転勤続きの中で、どこに行っても友達をつくり、思ったことはすぐ実行に移す実行力とたくましさがありました。



眼鏡をかけているのが久保田さん

川棚中学校ではバスケット部に入っていました。島原第一中学校に転校したらバスケット部がありませんでした。先生に「バスケット部を作ってください」と直訴し、作ってもらいました。

何に対しても興味を持ち
高校時代は同時に4つのクラブで活躍



演劇クラブで「太田道灌」を上演

川棚高校ではバスケット部、茶道部、コーラス部、演劇部の4つのクラブを掛け持ち。先生からどれか一つにしろと注意されましたが、やめませんでした。何に対しても興味を持ち、積極的でした。

PTA活動などでも奮闘

23歳で夫の公則きみのりさんと職場結婚。二人の子どもに恵まれ、PTA役員や尾山団地の婦人部長、川棚町少年少女合唱団の会長として奮闘しました。

労働組合運動を通じて

働くものの味方日本共産党に入党

一九七五年から国立病院の労働組合の書記として働きました。看護師の増員を求め、病院の統廃合に反対する運動の中で、いつでも働くものの見方



会で報告する久保田さん

「平和憲法を守り、子どもたちを大切に する社会を」と、立候補を決意



今年の平和行進で(一番左)

三根町議から「私の後継者に」という話があったとき、「自分にできるかな」と、悩みました。

しかし、憲法を変えて日本を「戦争する国」にしようとする動きが強まり、子どもたちをめぐる痛ましい事件を見るにつけ、「反戦・平和の党、人間を大切にする社会をめざして頑張っている日本共産党の議席を、川棚町からなくすわけにはいかない」という思いが強くなり、立候補を決意しました。

また、久保田さんの新しい挑戦が始まります。